

環境と暮らしを「かしこく」 つなぐ柏の葉

秋葉原から30分、つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス駅」を中心に広がる千葉県柏市の北部にある柏の葉エリア。この街では、公共主導・ハード優先ではなく、市民、大学、企業及び行政などがそれぞれの立場で手を取り合い、「柏の葉らしさ」を生み出す新しいまちづくりが進められています。



利根川南側に位置する柏の葉エリア。



柏の葉キャンパスタウンの一角にある柏の葉公園。「柏の葉セグウェイクラブ」は、まちのクラブ活動の一つで、将来はバトロールなどに活用し、安全で安心なまちづくりに役立てていきたいと語る(柏の葉セグウェイクラブ)。

公・民・学連携の取り組み

柏の葉エリアには、大学や国の研究機関などが数多く立地しています。緑豊かな自然環境にも恵まれたこの地域に健康長寿で未来型の都市経営を行う環境共生都市をつくるために策定されたのが「柏の葉国際キャンパスタウン構想」です。

「その大きな特徴が『公・民・学の連携』です。市民や行政、企業と、最先端の大学や公的研究機関が多面的に連携交流する中で、人にも環境にも優しく、新たな産業や文化的価値を創造するまちづくりを目指しています」(UDCK・柏の葉アーバンデザインセンター副センター長・三牧浩也氏)。

UDCKは柏市、東京大学、千葉大学、三井不動産(株)、田中地域ふるさと協議会(地域団体)など7つの構成団体が共同運営され、①まちづくりに関わる調査・研究・提案を行うシンクタンク、②各団体をつなぎ事業化を図るコーディネーター、③取り組みを市民や社会に伝える情報発信という3つの機能を持っています。

「UDCKの組織や施設を通じて、地域の皆さん一人ひとりがまちづくりに『自分も参加している』という意識を持っていただきたい。当事者意識、参加意識が柏の葉エリアを育む原動力になります」(三牧氏)



UDCKセンター長の出口敦氏(左から3人目)、副センター長の三牧浩也氏(左)を始めとするスタッフの皆さん。そして、三井不動産株の中田聖志氏(右から3人目)と、柏市主幹の松本昌章氏(右)。



ITSスポット対応カーナビとの間で広域な道路情報などさまざまなサービスを提供する「ITSスポット」。



マンションのインターホンに組み込まれた「CO₂見える化モニター」で楽しみながらエコ化。家庭内で削減した二酸化炭素排出量を「環境価値」ポイントとして柏の葉街エコ推進協議会が認証し「ホワイト証書」を発行。ポイントは地域の商業施設で利用できる。

進むスマートシティ計画

「千葉県が行う土地区画整理事業に合わせ、柏の葉エリアならではの豊かな自然環境と、大学などがもつ最先端の知と技術を「地域資源」とし、街の良さと魅力を生かしながら個性を持ったスマートシティを育もうという計画が、『柏の葉スマートシティプロジェクト』です」(三井不動産株 柏の葉キャンパスプロジェクト推進部事業グループ 統括・中田聖志氏)

例えば、柏の葉キャンパス駅前に平成26年完成予定の148街区では、最先端の省エネ技術と自然の環境調整力を生かした設計手法を取り入れることで、約40%の二酸化炭素排出量削減を計画しています。さらに地域レベルで発・受電量、消費電力量を三元管理するAEMS(エリア・エネルギー管理システム)により、エネルギー利用を最適化するだけでなく、災害時は避難所などのライフラインに優先供給できるように、なエネルギーの複線化を目指します。



柏の葉スマートシティプロジェクトの実証実験として、3カ所に設置された「マルチ交通シェアリング」のポート。

家庭レベルでは国土交通省の先導的都市環境形成促進事業を活用し、駅周辺の分譲マンションに家庭内の電気・ガス・水道の消費量を簡単にチェックできる「CO₂見える化モニター」を設置。各家庭から毎日どれだけ二酸化炭素が排出されているかに気づいてもらい、暮らしの省エネ化、低炭素化への意識を高めてもらうという試みです。

交通面では、ITS(高度道路交通システム)の実証実験も始まっています。最先端の情報通信や制御技術で人と道路と車両を情報ネットワーク化することに、渋滞・事故・大気汚染などの問題を解決し、安全・快適で環境に優しい交通システムを構築を目指しています。国土交通省や民間企業などによる柏ITS推進協議会が連携して研究開発を進めています。

また、電気自動車や電動バイク、自転車などの乗り物をその場で選んでレンタルし、目的地に近いポート(駐車場)で返却できるエリア交通システム「マルチ交通シェアリング」の実証実験などを通じて、二酸化炭素排出量や消費エネルギーの削減を目指しています。

人をつなぐエリアマネジメント

柏の葉エリアでは、市民がさまざまな機会でもちづくりに参加できるように、多くの活動が行われています。UDCKの専任スタッフが個々の取り組みを支



インターネット放送で地域情報を発信する「柏の葉コミュニティハウスK-stream」。参加者は世代や性別を超えて、幅広く各自得意分野の番組を持っている。

援するだけでなく、関係団体との調整や情報の共有といったまちづくり全体のマネジメントを担うことで、円滑で継続的な活動を可能にしています。

「例えば公園や街路に多くの樹木を植えたけれども、それに合わせて維持管理費も増えていく。もし、市民が主体的に維持管理に関われるならば、将来にわたって街に樹木を増やすこともできるでしょう。生活者の立場に立ったまちづくりをすることで個性的で調和のとれた住みやすい街が創られています。」(三牧氏)

さらに地域の交流・学習プロジェクト「まちのクラブ活動」や「まちづくりスクール」などを通して、まちづくりの担い手の発掘、育成も推進中です。

「まちづくりは、都市という器をつくらせて終わりではありません。そこに集う人々が安心安全に、そして楽しく過ごせる街として続いていく。それこそが、次世代の環境都市が目指す道だと考えています」(三牧氏)

※柏の葉スマートシティ：地域ぐるみで環境、エネルギー、超高齢化などの課題を解決していく街。